様式－４

性能評価項目確認書

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 経済性 | 1. 導入費用（イニシャルコスト）
* モデルケース（参考図）を参考に算出した単価を記載する。
* 別紙－１「１．技術公募の対象とする技術」①②③に該当する面的・線的な抑制技術算出時の施工条件については、平面を想定して算出する。
* 導入時における施工単価（□面的　□線的）

施工単価：　　　　　　　　　　（□円／100ｍ2 ,□円／100ｍ）※１　**添付資料**1. 単価を算出した根拠資料（金額入り数量計算書）を提出する。

（資料の添付：資料No. : ）1. 当該技術の施工にあたり想定または標準的な下地処理が必要な場合は

別途根拠資料を提出する。 （資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ）1. 維持管理費用（ランニングコスト）
* モデルケース（参考図）を参考に算出し、単価を記載する。
* 別紙－１「３．技術公募する「道路における雑草抑制技術」の効果を確認するための資料」④の実績による雑草抑制効果を維持するために必要な、期間中５年間の維持管理費用について、１～５年目までの年毎に記載する。

維持管理費用(□円／100m2 , □円／100ｍ)※１

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 | ５年目 |
|  |  |  |  |  |

* 維持管理費が必要でない場合は、その理由を記載する。

 **添付資料**1. 単価を算出した根拠資料（金額入りの数量計算書）を提出する。

 （資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ）1. その他（撤去費用）
* 当該技術の性能が低下し、維持管理が不可能となり、更新が必要となった場合に既存の材料等を撤去処分するために必要な費用を記載する。
* 施工後１～５年目の期間に係わらず処分に必要な費用を記載する。

　　　　撤去費用：　　　　　　　　　（□円／100ｍ2 ,□円／100ｍ）※１ |
| 効果持続期間 | 1. 耐用年数
* 主に材料（材質）の耐用年数が設定されているものについて記載する。

主要材料の耐用年数：　　　　　　　年1. 耐久性
	* 応募技術の材料がシート・カバー・マット類の場合で耐久性を確認している場合は引張強度を記載する。

引張強度：　　　　　　　　Ｎ／cm　 **添付資料**1. 経年変化した材料の耐久性を示す技術については、その根拠となる資料を提出する。

 （資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ）1. 雑草抑制期間
2. 雑草発生が確認されない期間（雑草の発生が目視で確認できない状態の期間）

　 抑制期間：　　　　　　　　　　　年　1. 道路上の通行の安全が確保され、通行車両からの歩行者や交通安全施設等の視認性が確保される期間※２

　　　 抑制期間：　　　　　　　　 　　年　* + 上記雑草抑制期間は、別紙－１「３．技術公募する「道路における雑草抑制技術」の効果を確認するための資料」④の実績による雑草抑制期間を記載する。
	+ 効果持続期間を担保する雑草（植物の種類や生態など）の条件があれば記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　* + 雑草抑制期間の正確な実績データが無い場合は、その理由を記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| 施工性 | 1. 日当たり施工数量
2. 日当たり単位施工数量（施工１班あたりの面積、延長）：

　　 　　　　（□ｍ2／日、□ｍ／日）1. 施工１班あたりの作業人員： 　 　　　　　　　人
* モデルケース（参考図）を参考に算出した数量を記載する。
* 施工に必要な専門性として、作業員が特殊技術を必要とする場合はその旨、（必要資格、人員）を記載する

 必要資格・人員：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**添付資料*** + 1. 数量を算出した根拠資料（歩掛かり）を提出する。

 （資料の添付：資料No. : ）1. 自然条件
* 施工するための条件がある場合は、その制限を記載する。（例えば、雨天施工不可や薬剤散布時の「風速」等）

施工条件（天候（風速含む））：　　　　　　　　　　　　　　　　　　1. 現場条件
* 材料を現場で準備加工するためのスペースが必要な場合は、その面積を記載する。

必要スペース：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（ｍ2）　　**添付資料**1. 現場配置図を提出する。

 （資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ） |
| 安全性 | 1. 有害物等の適切な処理対応　※３
* 別紙－１「３．技術公募する「道路における雑草抑制技術」の効果を確認するための資料」⑤の前処理において、一般的または標準的な仕様や施工にあたり雑草・土砂・殻等の処分が発生する場合は、その処分方法を記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1. 耐火災性
* 可燃性（耐延焼性）について記載する

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**添付資料**1. 耐火災性の性能を証明する資料を提出する。

　　　（資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ）1. 周辺利用への影響
* 雑草抑制技術の使用により、道路利用者や住民、農作物、水田、畑、用水路、法面等の裸地化などへの配慮が必要であれば、その内容を記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　* 雑草対策工事や実施箇所、周辺環境、構造物等への施工後の想定し得るリスクがあれば、その内容を記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1. 植樹への影響
* 樹木の生育への影響、施工後の想定し得るリスクがある場合は、その内容や対応策を記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| その他（技術の特長等）※４ | 1. 知的財産
* 特許、実用新案の「登録番号」と「考案の名称」を記載する。

登録番号、名称等：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1. 審査証明

**添付資料**1. 建設技術審査証明制度による「審査証明書」の写しを提出する。

 （資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ）1. 美観、景観、出来映え
* 美観、景観、出来映えに関する特長や工夫等があれば記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1. 域資資源の活用・循環型社会への貢献
* 地域の資源（県産品）やリサイクル品の有効活用について記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　* 環境負荷軽減、省資源化に関する特長があれば記載する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**添付資料**1) 地域の資源（県産品）やリサイクル品の有効活用について確認出来る資料（カタログ、パンフレット等）の写しを提出する。 （資料の添付：□あり／□なし　資料No. : ） |

※１：評価指標における延長又は面積については、一般的な交通規制区間の規模を想定し、100ｍ又は100ｍ2と設定している。

※２：「国が管理する一般国道及び高速自動車国道の維持管理基準（案）」(第３章直轄国道の維持管理　3.3除草）における以下の記述を参考に設定。

　　　除草は、雑草の繁茂により建築限界内に障害が発生することを防止するとともに、通行車両からの視認性を確保するため、以下の繁茂状況を目安として、除草すべき箇所を抽出した上で、実施するものとする。

　　　　・建築限界内の通行の安全確保ができない場合

　　　　・運転者から歩行者や交通安全施設等の視認性が確保できない場合

※３：有害物等とは、施工に先立ち現場から発生する土砂、廃材、雑草など、リサイクルやリユースができないものが、一連の施工・管理過程で発生した場合を想定している。

※４：特に従来技術(対象箇所での、これまで一般的に実施されている除草の工法)と比べて優れている点があれば、各項目それぞれ記載する。

◎この様式に収まらない場合は、複数枚に分割して作成しても構いません。

◎この様式は、今回の審査の参考として用いるものであり、無断で他の目的に使用することはありません。